

I. 問題

社会的支援研究の意義

身体・精神的健康における社会的支援の重要性の指摘は、当初、精神障害や精神衛生に関する研究の中で指摘された。Cassel(1974)は、疫学的諸研究を検討し、次の命題を提起した。人間や動物の場合、同種の他の特定の個体の存在は、特定の環境条件下では、さまざまなストレスフルな刺激からその個体を保護する役割をはたしている。つまり、人間においては、いわゆる対人関係がストレスフルな刺激の緩衝的機能をはたすことを指摘し、対人的環境の改善の重要性を示唆した。

また、Caplan(1974)は、有害な環境においても個人が健康を保てる、支援の専門家（ソーシャル・ワーカーなど）に加え非専門家も含めた支援システムについて提起した。この支援システムの主な機能として、a)対処のための情報の収集・蓄積とガイダンス提供、b)休息を与える避難所の役割が挙げられている。彼によれば、支援は、次の3つの成分から構成される。a)心理的資源を活用することによって情動的負担を取り除く、b)課題を共有する、c)状況対処のための物質的手段やガイダンスの提供。

その他、Cobb(1976)も、社会的支援を次の3つのいずれかに属する情報であると定義した。a)被験者に自分が注意を払われ愛されていると信じ込ませる情報、b)被験者に自分が尊敬され価値づけられていると信じ込ませる情報、c)被験者に自分がコミュニケーションと相互義務のネットワークに属していると信じ込ませる情報。彼は、このように定義した上で、先行研究を検討し、人間の誕生から死に至る人生周期におけるさまざまな移行において社会的支援が身体・精神的健康不全の予防的機能をはたすことを提起した。このCobbの考えは、後述する社会的支援の緩衝効果の研究のきっかけとなった。

社会的支援の機能がこのように示唆されて以来、社会的支援に関する膨大な研究が生み出された。これは、Mitchell & Trickett(1980)が述べているように、社会的支援の概念が次の3つの点での魅力をもつためであろう。a)コミュニティにおける人々の日常生活についての多くのことを知る操作的手段を提供する、b)さまざまな側面の心理学的適応に社会的支援を関連させることによって、予防的仲介のための理論的土台を提供する、c)社会的支援システムの考えは、専門家による治療にあまり重点を置かず、自然に生起する非専門的な支援関係のネットワーク内での配置に重点を置く。

現在では社会的支援は社会心理学における重要な研究領域となっているが、Fleming & Baum(1986)が指摘するように、社会心理学においても社会的支援と

関わりのある古典的理論を見出すことができる。社会的比較理論 (Festinger, 1954) や親和性研究 (Schacter, 1959) は、人々が他者との相互作用から得る利得や集団成員性のポジティブな結果に焦点をあてているのである。

社会的支援概念と測定の多様性

先に述べた膨大な社会的支援研究の出現は、同時に社会的支援概念や測定法の多様化をもたらした。したがって、先行研究での社会的支援概念の整理と新たな研究の方向づけが必要となる。ここでは、Tardy (1985) と Barrera (1986) によって提起された整理の視点を述べる。

(1) 社会的支援の5成分 - Tardy (1985) -

Tardy (1985) は、次の5成分から種々の社会的支援測度を検討した。方向性、性質 (disposition)、記述 (description) / 評価 (evaluation)、内容、およびネットワーク。

方向性とは、社会的支援の提供と受容を指す。大半の研究が社会的支援の受容に焦点をあてている。性質とは、支援の利用可能性と実際の利用を指す。中には、このことが区別されていない測度もある。記述/評価とは、社会的支援を評価するか、社会的支援を記述するかに関わる。大半が支援の様態に関する記述測度であるが、支援に対する満足などに関する評価的側面が含まれるものもある。内容とは、どのような種類の支援が測定されているかである。大半の測度が幅広い種類の支援を含んでいるが、特定の種類の支援に限定している測度もある。ネットワークとは、家族、親友、近隣の者などのネットワーク成員に関わる。支援ネットワーク内の成員を単に挙げる測度から各成員との支援関係を詳しく査定する測度まである。

(2) 社会的支援の3相 - Barrera (1986) -

Barrera (1986) によると、社会的支援概念は、a) 社会的組み込み (social embeddedness)、b) 知覚された社会的支援 (perceived social support)、および c) 実行された支援 (enacted support) に大別される。

社会的組み込みとは、当該の個人が自分の社会的環境での有意味な他者 (significant others) に対して持つ関係の様態を指している。この測定のために、次の2つのアプローチがある。1つめは、結婚の有無、コミュニティ組織への参加、きょうだいの存在、友だちとの接触などの社会的絆の存在に関する指標を用いることである。2つめのアプローチは、社会的ネットワーク分析による方法である。これは、焦点となる被験者にとっての重要な意味をもつ人物を明らかにするために構造化された手続きによる。社会的組み込み測度の重要な欠点として、そこで得られた社会的関係すべてが必ずしも社会的支援の提供

を含意しているわけではないということを指摘できる。しかし、存在する関係の質を明確にすることによって（たとえば、種々の社会的支援を提供するネットワーク成員を特定化する）、その克服が行われる。

知覚された社会的支援は、次の2点での他者との関係の認知的評価に関わる。a)必要なときに適切な支援が利用可能であるか、b)自分の対人的環境が援助的であるか。しかし、知覚された社会的支援測度が、ストレスや心理学的苦悩に関する測度と重複する懸念もある。

社会的支援は、他者が焦点となる人物に対して援助を行うときに遂行する行為としても概念化される。したがって、実行された支援は、支援提供の際の個人の実際の行為の測定が焦点となる。ふつう、この測度は、回顧的評価によるので、知覚された支援との交絡が問題となり得るだろう。